

元気な釧路創造交付金 実施報告書

1 実施内容

団体名	災害支援くしろネットワーク
事業名	災害支援ボランティアバスの運行
課題テーマ	被災地の復興支援、及び釧路地域の人材育成
事業実施の背景	3年前の東日本大震災により被災した東北沿岸地部の復興支援が、以前必要とされていること。また、今後被災地域となりうる可能性のあるこの釧路地域に、復興関連の知識のある人材を育てる必要があると考えたため。
事業目的の達成状況	多くの高校生・大学生らが実際に被災地に行き、現地で活動したことで本当に多くのことを学んでくれた。 その中でも特に、作業現場で被災者の方から当時の状況から、今の問題やこれからの課題などの話を聞いたことが、参加者にとって防災意識を高めることが出来た。
事業概要	釧路市発着のボランティアバスを運行し、現地ボランティアセンターで被害状況や事前説明を受け、復興支援作業を行う。 沿岸地域を視察することにより、被災地の実情を学ぶ。 主に高校生・大学生を中心に募集を行い、模範となるリーダーの育成に取り組み、成果を上げることが出来た。
事業の実施状況	参加者49名：高校生29名、大学生8名、教職員4名、保育士1名、社会福祉士1名、一般3名、世話人3名（スタッフ） 別紙 資料添付 スケジュール、報告書、他
成果目標の達成状況	帰釧後、学生の多くが学校や地域において、活動報告や防災キャンプなど多くの活動に積極的に関わり、多くの場で防災減災の啓蒙啓発に努めている。
波及効果の達成状況	高校生や大学生は地域で行っている様々なボランティア活動に、学生や大人の垣根を越えた活動を積極的に行っている。
実施体制	
連携した市担当課	無 ・ 有 (部 課 ・ 室)

2 支出決算書と支出内訳

(収入)

費目	決算額 (円)	内訳
元気な釧路創造交付金	600,000	
自主財源	597,483	
合計	1,197,483	

(支出)

費目	決算額 (円)	内訳
対象経費		
フェリー代	689,130	
宿泊代	430,820	
ガソリン代	77,533	
小計	1,197,483	
対象外経費		
小計	0	
合計	1,197,483	

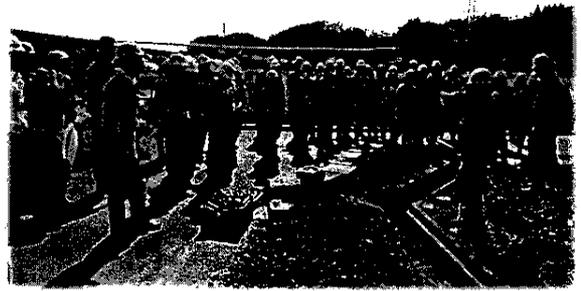
災害支援くしろネットワーク

第30次隊活動報告書



H26. 10. 10～13





震災ボランティア報告書

釧路短期大学1年 坂本 美里

はじめに、このようにボランティアとして東北の地へ行けること、様々な活動を通して感じ、見つめ、学ぶ機会をつくり与えてくれた災害支援くしろネットワークに心より感謝いたします。

平成26年10月10日～13日、災害支援くしろネットワーク第30次隊としての復興支援ボランティアが始まりました。作業を振り返り、一日目は陸前高田での側溝の泥抜き、遺品遺骨探し。

泥を掘り出し小さな何かでも見つからないかとの一心で泥と向き合うとともに3年前の3月11日の記憶が蘇りました。「この中に本当に何かが出てくるのだろうか」そんな疑問を抱きながら作業していた人もきっと多いはずです。私もそう感じたことがあります。意味のないことかもしれない、何も見つからないかもしれない、ただ、そこに人のいのちがあったこと、人の時、足跡があったことを忘れず希望を持ち作業をしようと感じながら行った大切な時間となりました。

二日目は、気仙沼大谷海岸での遺品遺骨収集。事前のオリエンテーションでは被災する前の様子を見せていただき、そこが今はどうなっているかを丁寧に説明していただきました。大谷海岸は以前海水浴場だったこともあり砂がキレイで海の青さも眩しく感じました。穏やかなこの場も被害にあったのだと思うと想像もつかない様な場でした。木の奥や砂を掘ると生活身溢れるものも。あっという間に作業時間が終わり、もっと作業をしたいという気持ちと、まだまだ継続しなければいけない作業だと強く湧き上がる想いがありました。

4日間を振り返り、今回私は隊長という役割りでの参加となりました。「隊長！」と呼ばれることに慣れない私を、『隊長』にしてくれたのはみなさんです。たくさんの応援やあたたかい言葉たちのおかげで多くの笑顔、気付き、力をいただきました。4度目のボランティアで少しずつ自分の役割が変わり、行動する機会を与えてくれたことに感謝です。また、初めて参加した高校生も多く、参加した方がそれぞれ何かのために何かを犠牲にし、学ぼうとしている姿が、私自身いつも勉強になります。真剣な眼差しで作業にあたる姿や、やり終えたときの清々しい表情、もっとやりたいという意欲を感じていて素晴らしいなと思いました。意識の高い集団、隊となり得るものも多かったと思います。

このような時間と活動、そして出逢いに感謝してこれから出来る事を一生懸命頑張らしましょう。出逢いの輪を、活動の輪を、そしてボランティアの輪を広げて行きましょう。その場に行くことだけがボランティアではありません。今いる環境でできることをするのも大切です。

最後に今回もこのようにボランティアに参加させていただきありがとうございました。災害支援くしろネットワーク、多くの有志の方々に感謝申し上げます。

この度は本当にありがとうございました。お疲れ様でした。